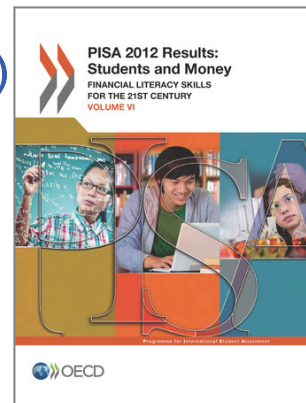


OECD Multilingual Summaries

PISA 2012 Results: Students and Money (Volume VI)

Financial Literacy Skills for the 21st Century

Summary in Japanese



全文を読む: 10.1787/9789264208094-en

PISA2012 : 生徒とお金 (第 6 巻)

21 世紀に向けた金融リテラシー

日本語要約

多くの 15 歳の生徒にとって金融は日常生活の一部となっている。彼らはすでにオンライン決済機能を持つ銀行口座のような金融サービスの消費者である。彼らは、義務教育の修了が近づくにつれ、複雑で難しい金融に関する選択もしなければならなくなる。彼らの最初の大きな決断のひとつは、このまま正規教育を継続するかどうか、そして学業を続けるための資金をどのように調達するか、ということかもしれない。

したがって、金融リテラシーは生活に不可欠のスキルであり、グローバルな政策課題の上位に置かれている。福祉制度の縮小、人口動態の変化、金融サービスの高度化と拡大などを背景に、あらゆる年齢の市民と消費者に金融リテラシーを学ばせることが重要であるという意識が高まっている。政府が金融リテラシーを向上させるための戦略と政策の策定を開始している国もある。「OECD 生徒の学習到達度調査 (PISA)」2012 の金融リテラシー評価は、15 歳の生徒の金融に関する知識と技能を初めて国際的に評価したものである。次回の評価は PISA2015 において実施される予定で、これによって、変化を捉えるとともに、金融リテラシー向上のための政策の設計と実施に関するさらなる実証データが得られる。

本巻は、PISA2012 の金融リテラシー評価の結果を報告したものである。金融リテラシー評価は、OECD 加盟 13 か国・地域 (オーストラリア、ベルギーのフラマン語共同体、チェコ、エストニア、フランス、イスラエル、イタリア、ニュージーランド、ポーランド、スロバキア、スロベニア、スペイン、米国) と 5 つのパートナー国・地域 (コロンビア、クロアチア、ラトビア、ロシア、上海) の約 2 万 9,000 人の生徒を対象に行われた。これらの国・地域は世界の GDP の 40% を占める。

金融リテラシーの平均得点が最も高かったのは上海で、以下、ベルギーのフラマン語共同体、エストニア、オーストラリア、ニュージーランド、チェコ、ポーランドの順だった。これらの国・地域は全て平均得点が参加した OECD 加盟国・地域の平均得点を上回った。

成績上位の国・地域と成績下位の国・地域の平均得点には大きな差があった。OECD 加盟国・地域で比較すると 75 点以上 (PISA 習熟度レベルで 1 段階分)、全参加者で比較すると 225 点以上の開きがあった。しかし、各国の金融リテラシーの平均得点の違いのうち、1 人当たり GDP によって説明される割合は、16% に過ぎない。

PISA2012 で最も難しい金融リテラシーの問題に答えられたのは、参加した OECD 加盟国・地域全体で、生徒 10 人中 1 人のみだった。

大半の生徒は、取引コストといった、すぐには分からない特徴を備えた金融商品の分析や、振込手数料を勘案した銀行の取引明細書の残高計算などの非日常的な金融上の問題解決、所得税区分の意味などのより幅広い金融制度上の問題の理解等ができた。これに対し、平均して、生徒の 15% は、PISA の金融リテラシー尺度の最低レベルの成績を下回った。これらの生徒はよくても、個人的に遭遇する場面で、必要なものと欲しいものの違いを認識したり、日常的な支出について簡単な決定を下したり、請求書のような一般的な金融文書の目的を認識したり、単純かつ基本的な算術計算（足し算、引き算、掛け算）をしたりすることはできる。

オーストラリア、チェコ、エストニア、ベルギーのフラマン語共同体、ニュージーランドなど、金融リテラシーの成績が優秀だった国の生徒は、平均して、その数学的リテラシーと読解力の成績から予測されるより高い得点を、金融リテラシーで得ていた。

これに対し、フランス、イタリア、スロベニアでは、生徒の金融リテラシーの成績の平均が、数学と読解力の習熟度が同じレベルにある全ての参加国・地域より低かった。したがって、金融リテラシーの技能は数学と読解力の技能と正の相関にあるものの、数学と読解力という中核的な科目のうちのひとつの成績がよいからといって必ずしも金融リテラシーの習熟度が高いわけではないといえる。

参加した 13 の OECD 加盟国・地域において、成績最上位者 10% と成績最下位者 10% の得点の差は 247 点だった。

平均すると、国内における金融リテラシーの成績差の 37% は、学校間の差である。これは大きな差ではあるものの、数学や読解力で見られる学校間の差よりは小さい。

参加した全ての OECD 加盟国・地域の平均で、社会経済的に恵まれている生徒の金融リテラシーの得点は、社会経済的に恵まれていない生徒より 41 点高かった。

参加国のうち、金融リテラシーの成績が平均以上で、金融リテラシーと社会経済的状況との関連性が平均以下だったのは、エストニアのみである。参加した全ての OECD 加盟国・地域の平均で、移民ではない生徒の金融リテラシーの成績は、社会経済的状況、家庭で話されている言語、数学と読解力の成績が近い移民の生徒の成績より、ややよかった。ベルギーのフラマン語共同体、エストニア、フランス、スロベニア、スペインでは、移民の生徒と移民ではない生徒の金融リテラシーの成績差は OECD 平均より大きかった。

15 歳の生徒の金融リテラシーでは、成人の場合とは異なり、男女差は小さかった。

イタリアを除く全ての参加国・地域において、男子と女子の金融リテラシーの平均得点に差はなかった。OECD 加盟国・地域において、金融リテラシーの成績上位者は女子より男子の方が多く、成績下位者も女子より男子の方が多かった。

オーストラリア、ベルギーのフラマン語共同体、エストニア、フランス、ニュージーランド、スロベニアでは、15歳の生徒の70%以上が銀行口座を持っているが、イスラエル、ポーランド、スロバキア共和国では、その割合は30%以下だった。

OECD加盟国・地域13か国中9つの国・地域では、社会経済的状況について調整すると、銀行口座を持っている生徒と持っていない生徒の間に成績の差は見られなかったが、ベルギーのフラマン語共同体、エストニア、ニュージーランド、スロベニアでは、銀行口座を持っている生徒の方が、持っていない社会経済的状況の同じ生徒より、金融リテラシーの成績はよかった。

問題解決への辛抱強さや寛容さなど、生徒の学習態度は、金融リテラシーと正の相関にあった。

参加した全てのOECD加盟国・地域の平均で、「複雑な問題を解くのが好き」という記述に同意した生徒と同意しなかった生徒の金融リテラシーの成績差は31点であり、習熟度レベル1段階のほぼ半分だった。

© OECD

本要約はOECDの公式翻訳ではありません。

本要約の転載は、OECDの著作権と原書名を明記することを条件に許可されます。

多言語版要約は、英語とフランス語で発表されたOECD出版物の抄録を翻訳したものです。

OECDオンラインブックショップから無料で入手できます。 www.oecd.org/bookshop

お問い合わせはOECD広報局著作権・翻訳部にお願いいたします。 rights@oecd.org fax: +33 (0)1 45 24 99 30.

OECD Rights and Translation unit (PAC)

2 rue André-Pascal, 75116

Paris, France

Visit our website www.oecd.org/rights



OECD iLibrary で英語版全文を読む!

© OECD (2014), *PISA 2012 Results: Students and Money (Volume VI): Financial Literacy Skills for the 21st Century*, OECD Publishing.

doi: 10.1787/9789264208094-en